

## 環境問題に関する事項（概況）

### 1. 地球温暖化対策

日薬連は高品質な医薬品の安定供給による日本の医療への貢献はもとより、重要な社会課題である気候変動問題に対しても積極的に取り組んでいる。経団連が 2050 年カーボンニュートラル達成に向けて推進している「カーボンニュートラル行動計画」に引き続き参加しており、2021 年度には経団連の CO<sub>2</sub> 排出量削減目標見直し要請に基づき、長期ビジョンを「2050 年 CO<sub>2</sub> 排出量ネットゼロ」、2030 年度目標を 2013 年度比 46%削減に改定した。2023 年度では、製薬業界におけるカーボンニュートラル行動計画の 2030 年度目標および日薬連フロン検討部会で取り組んでいる代替フロン（HFC）排出量削減目標に対する 2021 年度の進捗状況を 7 月に開催された厚生労働省主催の低炭素社会実行計画フォローアップ会議にて報告した。また、各削減目標に対する 2022 年度の進捗状況を調査し、経団連および厚生労働省に報告書を提出した。

(1) カーボンニュートラル行動計画（2030 年度目標）および代替フロン（HFC）の排出量削減目標に対する 2021 年度の進捗報告

(2) カーボンニュートラル行動計画（2030 年度目標）の 2022 年度の進捗調査および報告書提出

(3) 代替フロン（HFC）の排出量削減目標に対する 2022 年度の進捗調査

### 2. 省資源・廃棄物対策

経団連が 2016 年度以降、「環境自主行動計画」から名称を新たにして取り組みを継続する「循環型社会形成自主行動計画」に引き続き参加するとともに、製薬業界独自の自主行動計画（2021～2025 年度自主行動計画）に基づき、2022 年度の目標に対する進捗状況を調査し、結果を経団連に報告した。また、2019 年度に設定した 2030 年を目標とする“廃プラスチック再資源化率目標”に加え、2025 年度を目標年度とした産業廃棄物対策に関する目標、「経団連第五次目標」並びに「日薬連独自目標」を確認した。医療系一般廃棄物問題については、関係省庁、外部業界団体・協議会に積極的に対応した。

(1) 経団連環境自主行動計画（循環型社会形成自主行動計画）への対応

(2) 経団連環境自主行動計画に関するフォローアップ体制の維持

### (3) 2025 年度を目標年度とした産業廃棄物対策に関する目標の確認

## 3. 環境セミナー

2022 年度までは C O V I D -19 の感染予防に配慮したウェビナー形式で実施していたが、2023 年度は会場での参加も併用し、第 4 回環境セミナーを開催した。

## 環境問題に関する事項

### 1. 地球温暖化対策

製薬業界におけるカーボンニュートラル行動計画の 2030 年度目標および日薬連フロン検討部会で取り組んでいる代替フロン（H F C）排出量削減目標に対する 2021 年度の進捗状況を、7 月に開催された厚生労働省主催の低炭素社会実行計画フォローアップ会議にて報告した。また、各削減目標に対する 2022 年度の進捗状況を日薬連環境委員会に設置されているカーボンニュートラル行動計画 W G において調査し、経団連および厚生労働省に報告書を提出した。これらの詳細を以下に示す。

#### (1) カーボンニュートラル行動計画（2030 年度目標）および代替フロン（H F C）の排出量削減目標に対する 2021 年度の進捗報告

カーボンニュートラル行動計画（2030 年度目標）は 2030 年度 C O<sub>2</sub> 排出量を基準年度である 2013 年度比で 46%削減と設定している。本計画に対する 2021 年度の C O<sub>2</sub> 排出量は、日薬連進捗管理係数を用いて算定したところ 218.1 万 t - C O<sub>2</sub> であり、基準年度である 2013 年度の排出量 262.2 万 t - C O<sub>2</sub> に対して 44.1 万 t - C O<sub>2</sub>、16.8%削減であった。進捗率としては、年率 2.7%削減という計画から 47.1%が目標となり、2021 年度の進捗率は 36.6%で未達という結果であるが、再エネ電力分を考慮に入れた実質的な C O<sub>2</sub> 排出量は基準年比 25.8%削減、進捗率は 56.0%であり、順調に進捗しているといえる。

また、C O<sub>2</sub> 以外の温室効果ガス排出抑制への取り組みとして、代替フロン（H F C）の排出削減にも継続的に取り組んでおり、2021 年度も H F C 排出削減目標である排出量 110 t 以下を維持することができた。

#### (2) カーボンニュートラル行動計画（2030 年度目標）の 2022 年度の進捗調査および報告書提出

カーボンニュートラル行動計画の 2030 年度目標は 2030 年度 C O<sub>2</sub> 排出量の基準年度比で 46%削減である。また、目標に対する進捗状況の把握には調整後排出係数を使用している。2021 年度の C O<sub>2</sub> 排出量は 218.1 万 t・C O<sub>2</sub> であり、基準年度である 2013 年度の排出量 260.7 万 t・C O<sub>2</sub> に対して 42.7 万 t・C O<sub>2</sub> の削減となったが、前年度からは 1.6 万 t・C O<sub>2</sub> 増加した。ただし、再エネ電力購入等を考慮した場合、基準年度から 92.8 万 t・C O<sub>2</sub> の削減、前年度からも 26.0 万 t・C O<sub>2</sub> の削減となり顕著な C O<sub>2</sub> 排出量削減が認められた。2030 年度目標（140.8 万 t・C O<sub>2</sub>）に対する進捗率についても、削減年率 2.7%から算出した 2021 年度における期待される進捗率 52.9%に対し 77.4%となった。このように、実質的な排出量は 2030 年目標達成に向けて順調に進捗していると考えている。

### (3) 代替フロン（H F C）の排出削減目標に対する進捗調査

C O<sub>2</sub> 以外の温室効果ガス排出抑制への取り組みとして、喘息及び慢性閉塞性肺疾患の治療に用いられる定量吸入剤に使用される代替フロン（H F C）の使用段階での排出量削減に取り組んでいる。H F C 排出削減目標は 2010 年度 H F C 予測排出量 540 t の 79.6%削減である 110 t とすることとしている。2022 年度における排出量は 81 t であり、目標である 110 t 以下を維持した。また、H F C 排出量の C O<sub>2</sub> 換算量は前年度比で 7.1%減少となる 21 万 t・C O<sub>2</sub>e であった。ただし、直近の 5 年間の H F C の排出状況を見ると平均約 86 t であり、ほぼ横ばいとなっている。一方で、自己呼吸で吸入が困難な患者が一定数存在すること、喘息及び慢性閉塞性肺疾患の患者数が増加傾向を示していること、および次第に患者が高齢化していることから、将来の吸入剤の市場は増加見込みである。今後も目標値以下を維持していくとともに、新規技術の開発動向にも注視していきたい。

## 2. 省資源・廃棄物対策

日薬連は、経団連が「環境自主行動計画」から名称を新たにして取り組みを継続する「循環型社会形成自主行動計画」に参加するとともに、製薬業界独自の自主行動計画（2021～2025 年度自主行動計画）を策定し、2021 年度より取り組みを開始した。

また、医療系一般廃棄物問題については、関係省庁、外部業界団体・協議会などでの会合・協議にも積極的に対応した。

### (1) 経団連環境自主行動計画（循環型社会形成自主行動計画）への対応

経団連の環境自主行動計画のフォローアップ調査に合わせて、製薬業界の 2022 年度における進捗状況を調査し、結果を経団連に報告した。

2022年度の産業廃棄物最終処分量は6.4千トンであり、基準年度(2000年度)比78.4%減で、目標(75%程度削減)を達成した。また、2022年度の廃棄物再資源化率(再資源化量/廃棄物発生量)は64.0%(目標60%以上)と共に目標を達成した。その他、2022年度の廃プラスチック再資源化率は、70.0%(目標65%以上)であり、初めて目標を達成した。

(2) 環境自主行動計画に関するフォローアップ体制の維持

2016年度に日薬連環境委員会内に設置したワーキンググループを中心に、2022年度実績を調査した。

(3) 2025年度を目標年度とした産業廃棄物対策に関する目標の確認

2019年に新規設定した「2030年度の廃プラスチック再資源化率を65%以上にする」に加え、2025年度を目標年度とした産業廃棄物対策に関する目標(経団連第五次目標)として「2025年度の産業廃棄物最終処分量を2000年度実績比75%程度削減する」および日薬連独自目標として「2025年度の産業廃棄物再資源化率を60%以上にする」を確認した。

### 3. 環境セミナー

2022年度まではCOVID-19の感染予防に配慮したウェビナー形式のみで実施していたが、今年は会場での参加も併用し、2024年2月21日(水)に第4回環境セミナーを開催した。

民間企業より講師を招き、「タケダの環境負荷低減を目的とした活動の紹介」(武田薬品工業株式会社)、「製造業者のScope3」(株式会社サステナビリティ会計事務所)、「拡がりゆくサステナビリティアジェンダと企業により求められる対応」(EYストラテジー・アンド・コンサルティング株式会社)のテーマについて講演頂いた。環境委員会からは活動報告として「日薬連カーボンニュートラル行動計画の取り組み」、「日薬連循環型社会形成自主行動計画の取り組み」を発表した。セミナー終了後、期間限定で全講演内容の動画をYouTubeに掲載した。